

知行院便り

発行/宗教法人知行院 東京都世田谷区喜多見 5-19-2 TEL 03-3417-3456 FAX 03-3417-3000



いよいよ

知行院住職 坂本観泰

新年、あけましておめでとうございます。本年も檀信徒の皆さまが、健やかに、安らかにお過ごしただけを祈念申し上げます。

昨年十月、比叡山で千日回峰行を続けている釜堀浩元行者が、九日間、断食・不眠で明王堂にこもる堂入りを行いました。私も行者の先輩として、入堂の儀に随喜し、釜堀行者を見守らせていただきました。釜堀行者は無事堂入りを円成し、生身の不動明王になられ、これから三百日の化他行が始まることとなります。

今回の堂入りは、テレビや新聞の報道がとも目立ちました。特にテレビでは、前回やその前にとりあげたのはNHKくらいでしたが、今回は、民放各局が競うように大きくとりあげていたのが印象的です。

またテレビでは最近、お坊さんがレギュラーで出演する番組も放送されるようになってきました。つくづく感じるのは、仏教に対しての関心が、とても高くなっているということです。

これまでの社会では、宗教はむしろ触れるのを避ける風潮もあり、あまりとりあげられることは無かったように思います。ところが、近年は、そうした方向性への反省もあるのでしょうか、宗教なかんずく仏教の再評価が高まっているようです。

知行院としても、皆さんにより仏教に親しんでいただきたく思っております。これからも地域の寺として、いろいろなことを発信していきたいと思っております。今後ともよろしくごお願い申し上げます。

住職のおはなし

お墓の跡継ぎ

最近、お墓の継承についての相談が増えています。少子化が進む中、跡継ぎがない家も増えているため、どうしても自分が死んだ後のことが心配になってしまいうことでしょうか。

例えば最近、お寺にご相談にいられた方に次のような女性がいらつしやいました。自分の後にお墓を守る人がいないので、お墓を撤去し、ご先祖様や亡くなったご家族の永代供養を、そして自分が亡くなったら自分の永代供養をして欲しい、というお話しでした。

しかしよくお話しを聞いてみると、その女性には、娘さんがいるということがわかりました。ただ嫁いでしまっているため、お墓を任せるわけにはいかないと考えていたようです。「子どもに迷惑をかけるわけにはいかない」というのが、その方の思いでした。

ちよつと気になって「娘さんは、どうお考えなんですか?」とお聞きしたところ、娘さんにはまだ話をしていないということでした。そこで、「親だけで決めないで、娘さんといっしょに考えましょう」と提案して、次に娘さんといっしょにお寺まで来ていただいたのです。

娘さんにお話しを聞くと、お墓を撤去してしまふことには、あまり積極的にはありません

でした。そして母親に対して「お母さん、お墓をかたづけしてしまったら、私たちの心のよりどころがなくなっちゃうよ」という話を始めたのです。

母親は家の墓が残っていたら、迷惑をかけてしまふと考えていたのですが、娘さんはまったくそんなことを感じておらず、むしろお墓を無くしてしまふことに不安を感じていたのです。

ひとつ思い出すのは、数年前に高倉健さんが主演をした『あなたへ』という映画です。高倉さんの遺作となった作品です。

高倉さん演じる主人公が、奥さんを亡くして悲しみに暮れていた時、あるNGOの職員が、亡くなった奥さんからの手紙を持って高倉さんを尋ねてきます。その手紙には、「私が死んだら故郷の海に散骨して欲しい」と書いてありました。高倉さんは奥さんの思いに応えようと、遺骨を持って、奥さんの故郷の平戸(長崎)に車で向かいます。ただ高倉さん自身は、平戸に向かう道中、散骨をするかどうかについて、ずっと悩み続けます。

最終的には、平戸の海で散骨を行うのですが、主人公が「本当に散骨をしていいのか」と迷い続けたのは、亡くなった家族への思いは、遺族にとつて何ものにも代えられないものだからだと言っているようです。

人が死んだら何も無くなってしまうと考える人もいるでしょうが、多くの人は、家族が亡く

なつても、お墓の前に行く故人の存在を感じます。お墓が多くの人にとって心のよりどころになっているのは、故人の存在を感じることができるからなのです。

皆さんも、お墓のことや、お仏壇のこと、お葬式のことなどで、不安に感じていることが、ひとつや、二つはあると思います。もし、「どうしたらいいのかわからない」などの悩みがあったら、住職に相談をしてください。

ご供養に関することは、供養をされるほうと、供養をするほうの両方の思いが一致することが大切です。そうしないと、本当にいい解決にはならないのです。また、不安に感じられているようなことでも、単なる思い込みで不安になっているようなケースもよく見られます。

ですので、ちよつとしたことでも遠慮無く相談をしていただきたいと思います。相談していただければ、お話しを聞きながら、何が一番いいかを一緒に考えることができると思います。

案外簡単に解決することも少なくないはずですが、それに答えはひとつじゃありません。色々選択肢があつて、最終的にはそこから選ぶということになると思います。

何か不安なことがあつたら、お墓参りのついでに、正月のお参りのついでに、ぜひ立ち寄っていただき、ご相談いただければと思います。



已講大僧正と問答を繰り広げる(上)



三方の出会い 勅使、探題、已講が講堂前にて(右)

『知行院便り』が復活してからようやく4号目となります。前号まではご住職の修行時代のことをお聞きしましたが、今回は全日本仏教青年会(以後、「全日仏青」)でご活躍をされていた時のお話を聞きました。

全日仏青は、日本の各宗派の青年会の連合体です。天台宗だけでなく宗派を超えた活動を行っており、さらには国際的な活動も行っています。この全日仏青にご住職がどう関わっていたのか、詳しくお話しをお聞きしました。

(聞き手 編集担当 薄井秀夫)

聞き手 ご住職は、全日仏青で理事長を勤めるなど、ご活躍をされていますが、仏青に関わったのは、何かきっかけがあったのでしょうか？

住職 きっかけは十二年前、天台宗別格本山である書写山圓教寺(姫路市)の大樹玄承さんから、お声がけがあったことです。大樹さんが全日仏青の理事長に就任することになり、それを支えるために事務局次長をやってくれないか、ということだったのです。

私は任期の二年で辞めるつもりだったのですが、次の理事長を決める時、今度は、新しい理事長から「事務局長として支えて欲しい」と言われて事務局長を勤めることになり、更に二年後、今度は、理事長を勤めることになってしまいました。

聞き手 事務局次長時代、理事長時代は、ちょうど、

比叡山で法華大会・広学堅義

比叡山延暦寺では、四年目ごとに行われる天台宗随一の古儀の法会「法華大会・広学堅義」が十月一日から六日間、大講堂にて厳修され、延暦寺一山檀那院住職を兼務する坂本住職も出陣しました。

この法会は、天皇のお代理である天皇使がご登山され、ご聴聞になるので「勅会」と称し、天台宗の根本経典である法華経八卷(無量義経・観普賢経とあわせて十卷)の奥義を論究する「法華十講」と天台宗の僧侶の最終試験を意味する「広学堅義」の二つが行われ法華大会と呼ばれるようになりました。

午前中の「法華十講」では学徳兼備の已講大

新任職インタビュー

第四回 全日本仏教青年会で携わった国際活動

全日仏青もいろいろなことがあった時期でしたね。**住職** そうですね。ちょうど、世界仏教徒連盟の大会を日本に招致する活動をしていた時期でしたからね。全日仏青は、世界仏教徒青年連盟の大会を受け持つことになっていました。

ところが、当時の全日仏青は、その世界仏教徒青年連盟との関係がこじれていて、まずはその関係修復から始めることになりました。平成十八年には、台湾での世界大会に参加し、日本仏教の現状についてのプレゼンテーションを行いました。そしてこの時に、世界仏教徒青年連盟の副会長に就任することになったのです。

聞き手 具体的にはどのような仕事をされたのですか？

住職 そうですね。この台湾での大会の翌年には、姫路の圓教寺で国際仏教徒青年交流プログラム(I B Y E)を行いました。

主に十八歳から二十五歳までの青年仏教徒を各国から集めて、次世代の仏教界を担うリーダーの



世界仏教徒青年連盟の役員と坂本住職

育成を行うというものです。バングラデッシュ、インドネシア、韓国、マレーシア、台湾、タイ、シンガポール、日本の八カ国・地域から参加していただきました。

聞き手 そのプログラムは、どんなことをするのですか？

住職 圓教寺を会場に、いろんな国の青年がともに畳の上で生活し、坐禅・勤行・作務を行い、さらにはみんなで討論会を行ったのです。

本堂での勤行は、「宗派を超えて」というテーマを尊重し、日本語、パリー語、韓国語など、各国の言葉で行いました。また討論会は、それぞれが自国の仏教の状況の報告をした上で、「文化のかけはし、宗派を越えて」というテーマで議論を行いました。

みな熱い議論を交わし、その成果として関西宣言を読み上げ、仏教の未来についての提言を世界に向けて行うこともできました。そしてこの時のプログラムは、世界仏教徒連盟からベスト・オブ・I B Y Eという賞賛をいただいたのは、とても嬉しく思いましたね。(続く)



国際仏教徒青年交流プログラムの参加者

僧正(次期探題)に問者が教えを請うかたちで法華経の論議が行われ、夜儀として深夜にかけておこなわれる「広学堅義」では、問者と堅者(受験者)の問答を聞き、探題大僧正(天台宗教学の最高権威者)が合否を判定するものです。

坂本住職は、五日目の「法華十講」に問者として出陣、已講である妙法院門跡菅原信海大僧正と問答を繰り広げました。

住職が天台宗東京教区の四役に

坂本住職が十月一日より天台宗東京教区の教務主任に就任することになりました。教務主任とは、東京教区の四役(庶務、財務、社会、教務)のひとつ。ちなみに先代住職は、十六年前に社会主任を経験しています。住職は、「今までの修行の経験、宗派間の交流などの経験を活かして、東京教区の発展に寄与していきたい」と豊富を述べています。

お知らせ

正月護摩祈禱のご案内

不動明王の智慧の火が幸福を招きます

元旦未明と一月八日に皆様の諸願成就を祈念する修正会護摩祈禱を厳修いたします。

護摩とは本堂西側の壇中央にある炉の中に供物や護摩木を捧げ、仏の智慧の火で煩惱を焼きつくし、皆様の願いを本尊不動明王様に



お不動様の智慧の火に願いを込めて

お伝えし、所願が成就する事を祈るものです。また知行院ではお正月だけでなく、毎月二十八日も護摩祈禱を行っております。願い事をかなえたい方、厄を取り除きたい方は、ぜひ護摩祈禱の日にお寺までお越しください。

修正会大護摩供 元旦午前〇時三〇分(除夜)
新春大護摩供 一月八日午前一〇時
護摩供 毎月二十八日午前一〇時
 その他の日でもご希望に応じて奉修いたします。

冥加料 一願意 五〇〇〇円
 ※お札を手書きしますので、事前にお申し込みください。

祈願内容
 心願成就、当病平癒、厄除、家内安全、身体健全、安産、商売繁盛、息災延命、良縁成就、社運隆昌、試合格、交通安全など